

街を行く

第130回 心齋橋 Shinsaibashi

インバウンドに頼るしかないのか？



インバウンド客の消失で街の雰囲気が一変した心齋橋、かつての大混雑はいつまでか？

約一年ぶりに大阪へ来ています。正確には15か月ぶりの心齋橋です。以前より人通りがなく、貸店舗の看板をやたらと目にします。ありふれた商店街を歩いているような感覚で、ときに地方のシャッター街を思わせる雰囲気さえあります。信じられないことに、ここが大阪で一番人通りの多かった繁華街なのです。コロナ禍前まで、心齋橋はインバウンド観光客で大いに賑わっていました。通りを歩くとき日本語より中国語を耳にし、まるで上海の街を歩いているような気がしたものです。多くの中国人観光客のお目当てはドラッグストア。医薬品や化粧品を山ほど抱えてレジには長蛇の列ができていました。店内商品を1日3回入れ替えるほどの繁盛ぶりでしたから、店長は中国に足を向けて眠れなかったことでしょう。賃料も青天井で上昇、不動産投資家は法外な立ち退き

料を支払ってでもドラッグストアを誘致しようとしていました。それが、久しぶりに訪れたらドラッグストアは軒並み消えていました。中国語を耳にすることもほぼありません。ド派手な魔法が解け、元の侘しい心齋橋に戻ってしまいました。これが良いのか、悪いのか。地元民にとっては落ち着いた商店街に戻ってくれて喜ばしいことでしょう。その一方で、高い家賃でドラッグストアを誘致した側は大変です。インバウンド客目当てに開店した店はみな同じ。度重なる緊急事態宣言の前に、さぞ心が折れたでしょうね。これが一つのブームに頼り切った街の実態です。心齋橋を繁栄させるにはブームに乗るしかなかったのでしょうか？ インバウンド客が再び戻ってきたら、またぞろ同じことを繰り返すのでしょうか？

再び中国人客が来ない限り心齋橋の繁栄は望めないのでしょうか？これが日本の繁華街の課題だと思えます。馴染みの地元民で賑わっている商店街は別でしょうが、移り気な観光客に頼った街はどこも同様の悩みを抱えています。昔はこの「心齋橋」も地元住民、大阪人の誇る繁華街だったのですが…。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。